

特集 茗溪創基 150 年

目次

- グラビア 01 ~ 02
- 第 11 回定時総会（出席代議員一覧） 03
- 理事長挨拶 04
- 新理事長挨拶 05
- 学長挨拶 06
- 第 11 回定時総会議事要旨 07 ~ 08
- 新役員を選任について 09
- 令和 3 年度決算報告 10
- 令和 4 年度事業計画・予算書 11
- 茗溪創基 150 年記念式典速報 12 ~ 14
- 江田理事長のご退任と卒寿を祝う会 15
- 筑波大学は今 16
- Peer Garden（茗溪アルバム） 17 ~ 19
- 医薬品関連業界の交流会 20 ~ 21
- 誌上講座「知の提供」（東京 2020 大会を振り返って） 22 ~ 23
- 茗溪学園だより 24 ■ 追悼録 25
- おしらせ 25 ■ 春の叙勲おめでとうございます 26
- 広報 26 ■ 編集後記 26

茗溪



夏

2022

令和 4 年

no.1113





桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群
グローバル・コミュニケーション学群
航空・マネジメント学群
教育探求科学群 (2023年4月開設予定)
※設置準備構想中

桜美林学園 理事長・小池 一夫

学長 畑山 浩昭

入学部相談役 川田 孝一 (昭39教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学入学部インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO

SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っています。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：取締役 常務執行役員 岡本 俊一

〈昭和56年 第一学群 社会学類 卒業〉

<https://www.sekisho.co.jp/>

KAIT

力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。



■工学部

機械工学科 機械工学コース
機械工学科 航空宇宙学コース
電気電子情報工学科
応用化学科

■創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

■応用バイオ科学部

応用バイオ科学科 応用バイオコース
応用バイオ科学科 生命科学コース

■情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

■健康医療科学部

看護学科(看護師・保健師養成課程)
管理栄養学科(管理栄養士養成課程)
臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄 (S52 理) (神奈川若溪会会 長)

I R 室 望月 正大 (S51 理) (同 副会長)

公務員対策室 林 忠 (S58第1自)



神奈川工科大学

KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030

TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>

茗溪創基150年 記念式典

令和4年7月9日(土)
於茗溪会館

(P.12～14 参照)



表彰状・感謝状の授与



茗溪創基 150 年記念式典 集合写真



筑波大学混声合唱団 OB・OG 会有志による「常盤野の」

第 11 回定時総会

令和 4 年 7 月 9 日 (土)

茗溪会館 2F (茗溪の間)

(P.7 ~ 9 参照)



議長を務める江田理事長



茗溪会館入口の立看



総会全景



江田元理事長と井口新理事長 (総会後の祝賀会)



一般社団法人

茗溪会 第11回 定時総会

令和4年7月9日(土) 茗溪会館にて

定時総会出席代議員一覧

(敬称略)

筑波大	伊藤純郎	東京	渡邊 悟	神奈川	大石 進	京都	三橋利彦
名誉教授の会	大嶋建一	東京	三橋浩志	神奈川	佐々木悦子	大阪	松本秀範
宮城	土生善弘	東京	高橋 誠	神奈川	大畑 多津雄	大阪	岡村多加志
山形	津田 浩	東京	柳 久美子	山梨	小俣宏記	奈良	谷垣 康
福島	大沼博文	東京	飯島睦子	長野(代理)	志津 享	鳥取	小倉健一
茨城	秋本光徳	東京	浅井一郎	長野	宮坂博昭	島根	西村 覚
茨城	中澤 斉	東京	海老沢 敬子	新潟	中島郁雄	徳島(代理)	阿部 隆
茨城	中島博司	東京	竹村恭一	富山	福島英晴	香川	槌谷昌晃
茨城	高村祐一	東京	久保 淳	静岡	望月保宏	佐賀	松雪 誉
埼玉	細田幸一	東京	松村直樹	静岡	柴 雅房	長崎	山口千樹
埼玉	奥谷多作	東京	真当哲博	愛知	柴田悦己	熊本	大嶋康裕
東京	栗原茂夫	東京	徳田安伸	愛知	竹下裕隆	大分	野尻明敬
東京	田中 修	神奈川	中道 徹	三重	岡村芳成		

第11回定時総会

令和4年7月9日(土) 茗溪会館にて



挨拶

一般社団法人 茗溪会

理事長 江田 昌佑

第11回定時総会開催に当たり、理事長としてご挨拶いたします。

コロナ禍の中、まことに困難な事情を乗り越えて、今日を迎え、そして多くの議員の方々の参加を得て開催できましたことは、関係各位はじめ全国会員の皆様のお蔭と存じ、心からお礼申し上げます。

先刻、茗溪創基150年記念式典を挙行し、多数のご臨席を得たことは本会にとつて大きな慶びでした。一同が熱い思いと強い絆を体得できたことは無上の喜びであります。

3年間に亘つてのコロナ禍は、本会の活動に著しい影響を及ぼしましたが、関係者のご努力で、本会運営の根幹は揺るぐことなく、時として非常時対策を講じながら活動が続けて、恒例行事等は成就できたと考えています。記念事業についても同様であります。

記念事業と相俟つて、新しい課題も見えて参りました。それらは本会の今後の活動の指針となりましょう。

記念事業の一部(茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会及び記念誌発行等々)と拠金活動は、一年の延期が必要になり、更なる支援を切望する次第です。

議員の皆様、全国地域組織等の皆様には、茗溪会の発展のために、更なるご協力を重ねてお願い申しあげてご挨拶いたします。

退任の挨拶

今期を以って、理事、代表理事を辞任いたします。私儀

数年来、心身の老化、衰退に苦慮し、限度を自覚するに至りました。辞任の意志を申し出て了解を得、第11回通常総会の議を経て退任をいたしました。

新法人の初代の理事長として、5期10年を務めさせていただきました。本部役員の皆様、事務局の皆様、代議員の皆様、全国会員の皆様のお力添えを

賜つて今日を迎えました。皆様の温かなご協力に衷心よりお礼申し上げます。振り返りますと、私は昭和54年に筑波学都資金財団評議員、昭和59年に茗溪会理事として本会と関わりを持ち、以来40年近い私の半生でございました。茗溪会は教えられること、学ぶことが無尽蔵にございます。私は茗溪会に支えられて、豊かで大いに満足できた人生であつたと考えています。

総会後の新理事会で次期代表理事はじめ役員構成が選定されました。井口武雄新理事長のもとで、茗溪会は躍進の前途へ歩みを進められました。心からのお祝いとご期待を申し上げます。

最後になりますが、全国の茗溪会の皆様から感謝を申し上げて終わりたいと存じます。皆様のご健勝とご活躍をお祈りして挨拶いたします。



挨拶される江田昌佑氏



一般社団法人 茗溪会

新任の 挨拶

一般社団法人 茗溪会

新理事長 井口 武雄

7月9日に開かれました一般社団法人茗溪会の理事会におきまして理事長に選定されました井口武雄でございます。微力ではございますが、持てる力を尽くしてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

まず前理事長の江田先生のご功績を一部ですが挙げてお礼を申し上げたいと思います。

江田先生は2012年に理事長にご就任されました。以来10年、ご心血を注いで茗溪会を牽引してこられました。

この年は、公益法人制度改革に伴い茗溪会が社団法人から一般社団法人に衣替えをした年であります。まず新生茗溪会が実施しなければならぬ公益目的事業を江田先生は計画通り遂行することに勢力を注がれました。誰もが経験したことのないことを実施するこ

とには多くの困難が伴いましたが、計画通り完了されたことは皆様ご存じの通りであります。

茗溪会には多くの課題が残されており、また新たな課題も生まれました。会員数の減少と会費納入率の著しい低下、結婚式場などを運営しておりました茗溪サービスの経営破綻等どれ一つとっても解決の難しいものばかりでございました。

会員数の減少などに対しては「5・5・5作戦」、茗溪サービスの破綻については株式会社シーズンへの鞍替えをもつて対処されました。さらに茗溪会新会員は筑波大学の卒業生が大部分となり、教育界に入る人が減少して経済界、専門職、官界で活躍する人が増えてきました。この構造変化をいち早くとらえて産業人倶楽部を創設されました。このことが筑波大学生とその卒業生が年2回キャリアアカフェを開催して大学生のキャリアアップと就職活動の活性化に繋がっています。

茗溪会創基の年は師範学校創設の年でもあります。以来学校の名前と役割は何度かわり、東京教育大学そして筑波大学となりました。学校の名前は変わっても、全ての学校の卒業生の同窓会は茗溪会であります。教育界と産



江田前理事長と井口新理事長

業界の2本の柱をもって茗溪会は創基151年のスタートを切りました。相変わらずの会員数の減少と会費納入率の低下は何としても克服しなければならぬ課題です。

また創基150年の記念事業である「産業人倶楽部全国展開発表の会」と「150年記念誌」の発刊はきちんと実現しなければなりません。

会員が明るく元気に活動して会員と母校のための事業を行い親睦を深める同窓の仲間の会であります。また恰好の異業種交流の役目も果たせると思います。ともに力を尽くしてまいりますよう。

令和4年度 茗溪会定時総会

学長挨拶

国立大学法人 筑波大学長

永田 恭介



「茗溪会創立150周年」、誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。また貴会からの本学への日頃からの温かいご支援に対し、深く感謝を申し上げます。「茗溪会」は師範学校設立10年後の1882（明治15）年に創設され、国内で最も長い歴史を持つ同窓会として時を刻んで来られました。季刊誌である『茗溪』が今号で1113号を数えておりますことも、数ある茗溪会の伝承の一つだと思います。

本学は、創基である師範学校から数えて、今年で150年を迎えました。来年10月には、「創基151年筑波大学開学50

周年」を迎えます。今まさに来し方を振り返り、大志を抱いて次の50年に向けて歩き始めようとしています。折しも、この4月からは指定国立大学法人としての第4期中期目標期間に入りしました。これまでの第3期中期目標・中期計画をベースとして新たなステージに歩みを進めました。この4月に公表しました所信表明のタイトルは「『固定化』した社会や価値観を変える」です。

そのための大きなジャンピングボードの一つとなるのが、今年の秋に発行を予定している「大学債」です。東京大学、大阪大学に次ぐ3校目となります。大学債の資金を活用する三つの事業プランを予定しています。

一つ目は「TTF Forum」(IMAGINE THE FUTURE Forum (仮称))という、社会実装を目指してニーズドリブン型共同研究及び実証研究を推進するための開発施設の建設です。

二つ目はスポーツの複合施設である「Sport Complex for Tomorrow」です。現在のハンドボールコートエリアに、バリアフリーに留意した合宿施設やパラスポーツも可能なアリーナなどを建設するものです。

そして三つ目が「未来社会デザイン棟(仮称)」の建設です。これは現在の

学生宿舎のリニューアル計画の一部として、学生がグローバル社会や企業とつながる「場」となります。これらの事業を含め、本学は「真の総合大学」を目指し、これまで以上に「不断の改革」を進めていく決意です。

グローバル社会は激動しています。たとえば、新型コロナウイルス感染症の地球規模での蔓延です。この2年間は、それまでとは全く異なるものでした。学生も教職員も自制的に行動し、幾多の困難を乗り越えてきました。現在は、ウイズコロナの新たな日常への移行期間となっています。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻です。戦争状態に入って、早5ヶ月目を迎えています。本年3月には、「ウクライナの平和回復を求める」というメッセージ、「筑波大学は、学問を愛し、自由を尊ぶ者であれば、これまで通りに学ぶ場、研究する場を保証し、国籍などの違いによってお互いを傷つけ合うことを許さず、トラブルや不利益に対しては、心のケアを含めて、適切に対応してまいります」を發しました。この戦争当時国であるウクライナとロシア両国からは、昨年5月時点では、それぞれ5名および23名の留学生が来ていました。今年度はかなり減少するのではないかと

茗溪会におかれましてはますますのご発展をお祈りするとともに、引き続き本学へのご支援をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



一般社団法人 茗溪会 第11回定時総会議事(要旨)

一般社団法人茗溪会第11回定時総会は、令和4年7月9日(土)13時15分から茗溪会館2階「茗溪」の間において開催されました。今回は午前中に、茗溪創基150年記念式典が行われ、それに引き続いての総会になりました。

そのため、式典で使用した円卓をそのまま使用しての総会となり、昼食には赤飯弁当がでて、通常の総会とは違ったお祝いの雰囲気の中での総会となりました。

議事に先立ち、矢野常務理事より、本総会は役員改選期ということもあり、書面会議等避けるためにやむを得ず開催日を変更したこと、代議員総数94名のうち、出席47名、委任状による出席47名、合計94名の出席があり、定款第17条により定時総会は成立する、との報告がありました。また、長野支部



江田理事長

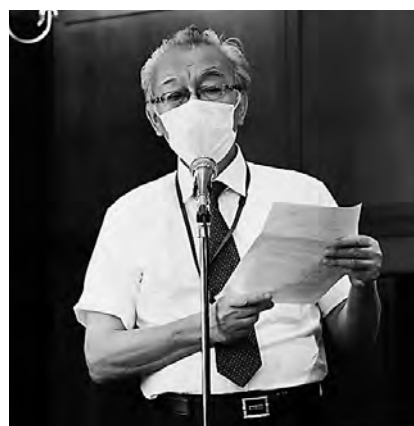
の北野享氏、大阪茗溪会の戸井田克己氏、香川茗溪会の香西新五氏の出席を了解しているとの報告がありました。

理事長挨拶

江田理事長の挨拶として、コロナ禍の中皆様のお力で総会が開催できたこと、総会に先立ち茗溪創基150年記念式典が盛大に行われたこと、同記念事業を通して新しい課題が見えてきたこと、同記念事業を進めるための拠金活動を1年延長するのでさらなるご協力をお願いすることなどが述べられました。(P11参照)。

議長就任、開会宣言及び議事録署名人

次に、定款第15条により理事長が議長につき、議長から第11回定時総会を開催するとの開会宣言がありました。定款第19条により本総会選出の議事録署名人2名には、浅井一郎代議員と渡邊悟代議員を選出して議事に入りました。



矢野常務理事

審議事項

第1号議案 令和3年度事業報告、決算書類及び監査報告の承認について

本議案の事業報告、決算書類は、事業年度終了後の第66回理事会で監事の監査を含めて承認を受けているが、定款40条により、事業報告は総会で報告、決算書類は総会で承認を受けなければならないとされています。議長から、本議案は一括提案説明、一括審議、一括承認の流れで諮りたいとの発言がありました。

まず、常務理事から令和3年度の事業について説明がありました。コロナ禍で各支部の総会が開けずに、会費の納入が減っていること、委員会の活動においてはオンラインでの活動は難しいこと、教職受験対策講座とOB・OGキャリアアカフェの事業はオンラインを活用して積極的に推進していることなどの報告がありました。

次に、會田局長代理から令和3年度予算・実績対比表、貸借対照表、正味



會田局長代理



飯塚監事

財産増減計算書等について、それぞれ説明があり、飯塚監事から、令和3年度会計期間における会計・業務の監査結果は、法令又は定款に違反する事実はなく適正と認めるとの報告がありました。

以上を受けて、議長が、本議案を一括して諮ったところ、本議案は賛成多数で可決承認されました。

第2号議案 令和4年度事業計画(案)及予算(案)について

議長から、本議案は一括提案説明、一括審議、一括承認の流れで諮りたいとの発言がありました。

まず、常務理事から令和4年度事業計画(案)について説明がありました。重点課題として、地域組織を基盤に、教育界と産業界を二本立てとして組織化を推進すること、新規会員の獲得・正会員の増加及び会費納入率アップのための組織的・計画的な活動の推進が挙げられました。事業の内容に関しては、産業界・官界各組織の活動推進、



ホームページの充実による交流推進、季刊誌「茗溪」を見やすくなるように工夫していくこと、筑波大学と協力して学生のキャリア形成、茗溪会館の活用などの説明がありました。

次に、會田局長代理から令和4年度予算(案)について、提案説明がありました。議長から、本議案を一括して諮ったところ、本議案は賛成多数で可決承認されました。

第3号議案 役員の選任について

議長から、定款22条により、役員は本総会の決議によって選任されることになっていますが、理事会内に役員選考委員会を設け、役員候補者を本総会に提案するものであることの説明があ

りました。

その選考委員長を務めた阿江副理事長から、定数は理事が15名以上25名以内、監事は3名以内であり、任期はいずれも2年であること、本年4月16日、役員選考委員会(委員7名)を開催して候補者を選定し、第66回理事会を経て、本総会に上程したとの説明がありました。今回提案された理事候補者は24名、うち重任理事候補者21名、新任理事候補者は3名、監事候補者は3名で全て重任監事候補者であることの説明がありました。候補者全員は賛成多数により承認されました。

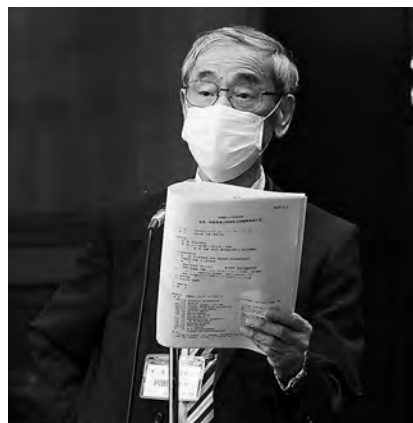
【重任理事】 阿江通良、新井達郎、井口武雄、川田孝一、佐藤 忍、佐藤順一、真田 久、柴田 淳、高橋基之、田代淳一、田中正造、谷出正直、西川綾子、早川源一、春山賢男、廣田則夫、福岡一雄、宮尾 徹、百瀬明宏、守橋健二、矢野正人

【新任理事】 小泉いづみ、小林千洋、西村宗一郎

【重任監事】 飯塚良成、小泉淑子、高野 力

報告事項

茗溪創基150年記念事業委員会川田委員長から事業の概要について説明がありました。拠金活動は令和4年度末まで延長し記念事業の活動を充実させていくこと、記念事業の一つとして茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会が行われること、記念誌の発行などについての説明がありました。



川田理事

以上で議事は終了し、会場を4階に移して第68回理事会が開かれました。代議員は、諸連絡の説明を受けた後、4階に移動し、理事会の結果報告を受けました。

諸連絡

室岡大塚事務所長から以下の説明と要請がありました。

- (1) 会員登録・会費納入状況、
- (2) 各地域組織からの提出・報告・連絡文書について
- (3) 従来還元金(正会員数×会費10%)に、各地域組織で集めた会費分10%を加算して還元します。組織集金の場合、還元金700円(人)
- (4) 団体寄付(各地域組織単位での寄付)のお願い



新理事長に選出された井口武雄氏

- (5) 季刊誌「茗溪」夏号の発行が一月遅れること、
- (6) 新会員管理システムについて
- (7) 名誉教授の会による各地域組織への出前講座等についての案内

第68回理事会報告

江田理事長が退任され、退任の挨拶がありました。新理事長に井口理事が、副理事長には川田理事と阿江理事が、常務理事(事務局長兼務)には矢野理事が選出されました。また、井口新理事長からの提案で、江田前理事長には本会顧問としてこれからもご助言・ご指導をいただくこととなりました。引き続き井口新理事長の挨拶と、3名の新理事小泉、小林、西村理事の紹介と挨拶がありました。

これで全ての予定が終了し、茗溪創基150年記念祝賀会へと移動しました。

新役員の選任について

第11回定時総会議事（要旨）報告の通り、第3号議案によって下表に紹介する役員が選任されました。重任理事候補者21名、新任理事候補者3名、重任監事候補者3名です。一覧に、就任年月日を記載しておきましたので、参考にしてください。

理事と監事の選任の決議は、挙手による採決で行われ、候補者全員が賛成多数により承認されました。

その後、選任された役員は、4階会議室に移動し、第68回理事会を開いて、今回退任される江田氏に替わって井口氏が理事長として満場一致で選出され、その後、副理事長と常務理事が新理事長の指名により可決承認されました。理事会終了後、代議員の方々が合流し、新役員が紹介されました。



新理事に選任された小泉いつみ氏

一般社団法人 茗 溪 会 令和4年度 理事・監事名簿

No	役 職	氏 名	卒年科	当初就任
1	理 事 長	井 口 武 雄	S40教大法政	H22. 6 . 2
2	副理事長	阿 江 通 良	S57筑博体	H22. 6 . 2
3	副理事長	川 田 孝 一	S39教大総農	H22. 6 . 2
4	常務理事	矢 野 正 人	S53教大修農	H28. 5 . 26
5	理 事	新 井 達 郎	S56筑博化	H19. 6 . 1
6	理 事	佐 藤 忍	S60筑博生物	H23. 6 . 1
7	理 事	佐 藤 順 一	S56筑一社会	R 2 . 5 . 30
8	理 事	真 田 久	S56筑修体	H30. 5 . 24
9	理 事	柴 田 淳	S56筑修体	H24. 5 . 24
10	理 事	高 橋 基 之	S53筑一自	H27. 6 . 1
11	理 事	田 代 淳 一	S59筑修教	H28. 5 . 26
12	理 事	田 中 正 造	S36教大健	H13. 6 . 2
13	理 事	谷 出 正 直	H17修体	R 2 . 5 . 30
14	理 事	西 川 綾 子	S58筑二農	H24. 5 . 24
15	理 事	早 川 源 一	S51教大東洋	H28. 5 . 26
16	理 事	春 山 賢 男	S55筑一自	H28. 5 . 26
17	理 事	廣 田 則 夫	S53筑一社	H28. 5 . 26
18	理 事	福 岡 一 雄	S32教大法政	H21. 6 . 1
19	理 事	宮 尾 徹	S54筑二農林	H23. 6 . 1
20	理 事	百 瀬 明 宏	S55筑一人文	H24. 5 . 24
21	理 事	守 橋 健 二	S53筑一自	H28. 5 . 26
22	理 事	小 泉 いづみ	S51教大体	R 4 . 7 . 9
23	理 事	小 林 千 洋	S53筑一社	R 4 . 7 . 9
24	理 事	西 村 宗一郎	S51教大理	R 4 . 7 . 9
25	監 事	飯 塚 良 成	S63慶大商	H13. 6 . 1
26	監 事	小 泉 淑 子	S41教大法政	H29. 6 . 1
27	監 事	高 野 力	S48教大木工	H11. 6 . 2



新理事に選任された小林千洋氏



新理事に選任された西村宗一郎氏

令和3年度決算報告

貸借対照表

令和4年3月31日

(単位：千円)

科 目	当 年 度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	103,510
未収消費税	
流動資産合計	103,510
2. 固定資産	
固定性預金	319,087
建物	600,445
構築物	2,650
機械装置	1,408
什器備品	1,430
土地	314,776
固定資産合計	1,239,795
資産合計	1,343,305
II 負債の部	
1. 流動負債	
前受金	24,814
未払法人税	9,140
未払消費税	410
預り金	331
流動負債合計	34,695
2. 固定負債	
退職給与引当金	0
満期共済金引当金	14,700
保証金	1,400,000
修繕費積立金	0
固定負債合計	1,414,700
負債合計	1,449,395
III 正味財産の部	
一般正味財産	△106,089
正味財産合計	△106,089
負債及び正味財産合計	1,343,305

正味財産増減計算表

2021年4月1日から2021年3月31日

(単位：千円)

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用収益	
地代収入	71,310
建物賃貸収入	11,220
会費収入	
正会員受取会費	14,962
若溪フェロー会費	1,376
事業収益	
委託料収入	1,813
広告料収入	2,460
寄附金	
寄附金収入	5,696
退職給付引当金取崩収入	1,766
退職給付引当金戻入益	0
雑収益	
受取利息	6
駐車場利用収入	1,018
雑収益	1,968
経常収益計	113,596
(2) 経常費用	
事業費	
給与手当費	22,924
式典事業費	521
旅費交通費	0
負担金	0
通信運搬費	4,922
印刷製本費	2,987
水道光熱費	2,083
業務委託費	8,314
租税公課	32,358
修繕費	2,722
火災保険料	876
助成金	350
退職給付費用	0
占春園支出	49
管理費	
監事報酬	150
臨時雇賃金	0
退職金	1,766
福利厚生費	48
総会諸費	61
会議費	144
旅費交通費	287
通信運搬費	1,390
什器備品費	562
消耗品費	819
印刷製本費	1,040
集金費	1,609
諸謝金	816
負担金	28
会員データ管理費	2,536
渉外費	39
賃借料	598
減価償却費	30,361
雑費	78
経常費用計	120,438
当期経常増減額	△6,842
2 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
固定資産除却損	0
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 6,842
一般正味財産期首残高	△99,248
一般正味財産期末残高	△106,089
IV 正味財産期末残高	△106,089

収支計算書

令和3年4月1日～令和4年3月31日

(単位：千円)

I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
(1) 事業活動収入	
会費収入	16,337
正会員会費収入	14,962
フェロー収入	1,375
事業収益	86,803
地代収入	71,310
建物賃貸収入	11,220
委託料収入	1,813
広告料収入	2,460
寄付金収入	263
寄付金収入	263
雑収入	2,993
駐車場利用収入他	1,018
受取利息収入	7
その他雑収入	1,968
退職給付引当金取崩収入	1,766
退職給付引当金取崩	1,766
事業活動収入計	108,162
(2) 事業活動支出	
事業費支出	78,106
管理費	11,734
事業活動支出計	89,840
事業活動収支差額	18,322

令和 4 年度 一般社団法人 茗溪会 事業計画

1. 事業計画のねらい

- (1) 茗溪創基150年記念事業の推進を図り、それを機に、将来を見通して、より積極的な事業展開を目指す。
- (2) 地域組織等の活動の充実・活性化事業を推進する。
- (3) 地域組織を基盤に、教育界と産業界（官界を含む）を二本立てとして組織化を推進する。
- (4) 新規会員の獲得・正会員の増加及び会費納入率アップのための組織的・計画的な活動を推進する。

2. 事業の目的（定款第3条）

会員相互の親睦及び互助並びに知徳の啓発を図り、併せて国立大学法人筑波大学の目的及び使命の達成に協力し、学術、文化、教育並びに社会貢献活動及び国際相互理解の促進に資する事を目的とする。

3. 事業の内容（定款第4条）

- (1) 会員相互の親睦を図るための交流事業並びに会員の福祉を図るための共済に関する事業
 - ① 教育界各組織の活動推進 ② 産業界・官界各組織（「茗溪・筑波産業人倶楽部」等）の活動推進
 - ③ ホームページの充実による交流促進 ④ 追悼のつどいの実施
- (2) 定期刊行物その他出版物などの発行に関する事業
 - ① 季刊誌「茗溪」の発行
- (3) 研修会、講演会、公開講座等会員その他の教養向上と地域社会への貢献に資する事業
 - ① 公開講座の実施 ② 地域組織等主催による公開講座への助成
- (4) 学術、芸術、社会貢献、国際相互理解等の顕著な活動に対する奨学、支援、表彰などに関する事業
 - ① 学生及び同窓の諸活動への助成事業
- (5) 財産の管理・運営に関する事業
 - ① 茗溪創基150年記念事業を機とした財政の再編強化
 - ・会費の増収を図るための施策の立案と実施
 - イ 会員名簿を整備し、各地域等の連絡調整態勢を確立する
 - ロ 新会員の入会促進策の立案と実施
 - ハ 旧乙会員の正会員への掘り起こし策の立案と実施
 - ② 茗溪会館の利活用を安定・向上させる事業
- (6) 教育の振興、普及活動に資する事業
 - ① 筑波大学側と地域組織等との交流 ② 筑波大学と協力して学生のキャリア形成
 - ③ 教職受験対策研修会の開催
- (7) 茗溪創基150年記念事業の推進
- (8) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 前項の各事業は、全国において行うものとする

令和 4 年度予算書

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

(単位：千円)

科 目	R4年度予算	科 目	R4年度予算	科 目	R4年度予算
I 事業活動収支の部		(2) 事業活動支出		総会諸費支出	1,500
1. 事業活動収入		事業費支出	87,969	会議費支出	400
(1) 事業活動収入		給料手当支出	24,664	旅費交通費支出	300
会費収入	16,337	助成金支出	1,300	通信運搬費支出	1,500
正会員会費収入	14,962	式典費支出	450	集金費支出	2,460
フェロー収入	1,375	旅費交通費支出	900	什器備品費支出	0
事業収益	86,603	負担金支出	100	消耗品費支出	730
地代収入	71,310	通信運搬費支出	5,000	印刷製本費支出	1,000
建物賃貸収入	11,220	印刷製本費支出	3,000	会員データ管理費支出	2,500
委託料収入	1,813	租税公課支出	32,358	諸謝金支出	800
広告料収入	2,260	業務委託費支出	13,321	負担金支出	29
寄付金収入	0	光熱水料費支出	2,000	渉外費支出	50
寄付金収入	0	火災保険料支出	876	賃借料支出	592
雑収入	3,559	修繕費支出	4,000	雑支出	50
駐車場利用収入	1,584	管理費	12,109	予備費	0
受取利息収入	7	監事報酬	150	事業活動支出計	100,078
その他雑収入	1,968	給料手当	0	事業活動収支差額	6,421
退職給付引当金取崩	0	臨時雇賃金	0		
退職給付引当金取崩	0	退職金支出	0		
事業活動収入計	106,499	福利厚生費	48		

茗溪創基150年

記念式典及び祝賀会速報

7月9日(土)午前11時から茗溪創基150年記念式典が盛大に挙行された。当初、茗溪会創立記念日(4月29日)に開催する予定で準備が進められてきたが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みての延期開催となった。



当日は事務局の他に広報委員の取材や写真・録画撮影、東京茗溪会の方々には駅頭の案内に始まり茗溪会館内の受付や案内、来賓や参加者の対応、果てはエレベータ操作など、大活躍して頂きました。

会場である茗溪会館「茗溪の間」には、全国各地から150人の関係者が集まり、盛大にかつ和やかに執り行われた。

記念式典

記念式典は、柴田淳理事の司会により進行した。

黙祷

開会に先立ち黙祷が行われた。矢野正人常務理事から茗溪会創立3年目の明治18年以来、「合祀慰霊祭」(現「追

悼のつどい」が実施され、合わせて16,799柱の御霊を慰霊してきたとの説明があった。また、茗溪創基150年記念事業に心を砕き、昨年12月に逝去された河本武前委員長の死を悼み、併せて多くの諸先輩の御霊に深甚なる謝意を表し、黙祷を捧げた。



黙祷に続き、高橋基之理事指揮の筑波大学混声合唱団OB・OG会有志「コール・パウロニア」により、学生歌「常陸野の」が厳かに合唱された。「常陸野の」は、1976年、当時筑波大2年の青木克彦(比文)が作詞、飯島睦子(人間)が作曲した。

開会、理事長挨拶、来賓挨拶

井口武雄副理事長による開会の辞の後、江田昌佑理事長から、この記念事業の実施の中で茗溪の素晴らしさを学んだと挨拶があった(P4参照)。

続いて、3名の来賓から祝辞を頂いた。

太田圭筑波大学副学長は、永田恭介学長の「筑波大学は今後真の総合大学を目指す、その際嘉納治五郎先生の自他共栄・精力善用の精神を実践していきたい」という趣旨の挨拶を代読された。

次に、日頃から当会に貴重なご意見

を賜っている穆談会を代表して五十嵐耕一氏から江田理事長の功績を讃えるとともに「筑波大学が今後真の総合大学として発展することを祈念している」とご挨拶を述べられた。

続いて、かつては茗溪会の同窓としての存在であった桜蔭会の高崎みどり会長から、茗溪会とお茶の水女子大学の同窓会である桜蔭会の歴史に触れながらのご挨拶があった。



・学長挨拶を代読する太田圭副学長
・江田理事長の功績を讃える穆談会の五十嵐耕一氏
・茗溪会と桜蔭会の歴史を顧みる桜蔭会会長高崎みどり氏



この後、挨拶された3名のほか、穆談会の長瀬要石氏、西川潔氏、(財)筑波都資金財団理事長の田中正造氏、(学)茗溪学園理事長の中川喜久治氏、同学校長の宮崎淳氏が来賓として紹介された。

表彰状・感謝状の贈呈

茗溪会に対して多大な貢献があった地域組織に対して表彰状が贈られた。

続いて、これまで茗溪会に対して多大な貢献や後援・協力をして頂いた法人・団体等に対して感謝状が贈呈された。



会場では、茗溪会愛知支部の竹下裕隆氏、MKSの松本秀範氏が代表して表彰状を受け取られた。感謝状は茗溪学園、(株)シーズン、(株)吉岡印刷の3法人を代表として手渡された…。写真は3法人の方々に感謝状を読み上げる江田理事長。

●表彰状が贈呈された各団体

(1)地域組織等の会費納入率の向上及び会員増への貢献
山形県支部、福井県支部、和歌山茗溪会、茨城茗溪会、神奈川茗溪会、愛知支部、三重茗溪会、筑波大茗溪会、徳島茗溪会、長野県支部

(2)地域組織等別ブロック等の活動への貢献
東京茗溪会、神奈川茗溪会、近畿ブロック九州・沖縄ブロック、北海道・東北ブロック、北陸・東海ブロック、中国・四国ブロック、常陽銀行茗溪会、三井住友海上火災保険(株)茗溪会

●感謝状が贈呈された各団体

(1)茗溪会への貢献
第一生命保険(株)、(株)シーズン、山浦印刷(株)、(株)東京科学光芸社

(2)茗溪会への後援・協力
(学)茗溪学園(株)キュービッド、神奈川工科大学、(株)ブライダル、(株)カクヤスグループ、大曽根タクシー(株)、関彰商事(株)、(株)ユーハイム、(学)桜美林学園、(株)図書文化社、東京ビジネスホテル、(株)長谷工コーポレーション、(株)十和観光、(株)ケーエスアイ、福岡労務経営事務所、(株)KTAJ、FXC(株)、(株)岩手手ギン工房、(株)つくばウエルネスリサーチ、シブス21、筑波大学 中村伸夫、吉岡印刷(株)、(社)日本造園組合連合会、(株)大阪テクノクライト、クオレ不動産研究所、(株)阿部兄弟建築事務所

記念事業報告、閉会

茗溪創基150年記念事業について、川田孝一委員長から報告があった。

本事業は、これまで先輩が築かれた足跡を次の時代に伝えるとともに新たな発展をすべく「伝承と創造」をグラントテーマとし、令和元年からスタートした。

事業としては、占春園の再生、茗溪・筑波産業人倶楽部の開設、記念式典の挙行、記念誌の編纂等を行い、多くの会員が参加できるよう事業を推進してきた。寄付は令和6年3月末まで継続しているのをご協力願いたいと結んだ。

最後に、阿江通良副理事長から「筑波大学は改革の大学なので今後の改革発展を期待したい」と閉式の辞があり、その後、参加者で記念撮影が行われた。



茗溪会館始まって以来の大集合写真であった。足場が生まれ、「最上段は年齢の比較的若い人に」との呼びかけに一同が大笑いした。和やかな撮影風景であった。記念写真はその日のうちに参加者に手渡された。

「小音楽会」



式典後、1階カフェHARUTERASで来賓・会員を対象に「小音楽会」が開催された。

この「小音楽会」は、高橋基之理事の呼びかけにより、ソプラノ歌手として活躍している高山千代美氏ら「コール・パウロニア」の皆さんの協力により実現した。高山氏による美しく澄み渡るソプラノの独唱、テノールの高橋理事による力強く響き渡る独唱が会場を魅了した。とりわけ高山氏のオリジナルデュエット曲で、病床にあった父への想いを込めた「父娘（おやこ）」が心に響いた。最後に、「コール・パウロニア」による「ふるさとの四季」と題した「故郷（ふるさと）」など七つの唱歌は参加者の郷愁を誘った。

会場では、太田圭副学長をはじめ多くの来賓や会員の方々が楽しんでいた。

が、笹原秀夫氏は、心に沁み入る歌声に感動し、「企画しているイベントのセレモニーに是非出演してほしい」と話していた。

このように1階カフェでは、楽しい時間が過ぎていった。

「明るく元気に」記念祝賀会開催

15時過ぎから茗溪会館2階茗溪の間において、「記念祝賀会」が開催された。祝賀会は、筑波大学農林の先輩・後輩である宮尾徹理事と西川綾子理事の司会で進められた。

ピアノ演奏と歌唱でお出迎え

祝賀会会場では、全員が着席し開宴となるまでの間、繊細で透明感のあるピアノ演奏が響き渡り、参加者が着席する頃には会場全体が優しく心地よい空気に包み込まれていた。続いて、ピアノの調べに乗せて、ソプラノとテノールの独唱に続き、混声合唱団が「ひ



ピアニストの小介川淳子さんによる「愛の夢」「ノクターン」などのピアノ演奏に聞き入る参会者

とつの時代」を歌い終わると、大きな拍手が会場を一つにした。

「ひとつの時代」は、2014年に筑波大学混声合唱団創立40周年記念として委嘱創作された合唱組曲で、今日まで様々な演奏会で歌い継がれているという。合唱団を立ち上げ、初代団長であった高橋理事は「茗溪創基150年にあたり、私たちの記念の曲を歌わせていただき本当に光栄です」と語っていた。

開宴に先立ち…

本日開催された「定時総会」において、江田昌佑理事長が退任された。江田理事長から「この度退任することになり、肩の荷が下りた。長い間の皆さんの献身的な支援に感謝する。長い間支えてくれた賢人の井口武雄氏が後任に選出されて茗溪会の前途が明るく開けた」と、退任の挨拶があった（P4参照）。

また、感染禍によりできなかった卒業の祝いを祝賀の場を借りて行った。合唱団による「ドイツ学生歌」の中、花束と記念品が贈られると、大きな拍手が起った。



阿江副理事長から記念品を受け取る江田理事長

元筑波大学芸術系教授の栗田保久氏制作によるガラス工芸が記念品として会場に飾られた。

新理事長の挨拶

続いて、新理事長に選出された井口武雄理事長から挨拶があった。

井口新理事長は、江田前理事長の法人改革など様々な課題解決を図ったその功績を讃えるとともに、「江田

前理事長のような高い見識と深い経験がないので各人の支援をお願いしたい」とし、「明るく元気な茗溪会」を会員とともに作っていただきたいと述べた（P5参照）。



来賓挨拶

穆談会の長瀬要石氏から来賓挨拶があった。長瀬氏は、昭和35年東京教育大学農林経済学科を卒業し、農林省に入省後さまざまな要職に就き、海外経済協力基金副総裁や国際協力銀行副総裁などを歴任している。長瀬氏は、学生時代の思い出として、「ある授業日に、駒場の寮で仲間と会食をしている様子を偶々見つけた朝永振一郎先生が咎めるどころか、君たちは今心の日向ぼつ



乾杯をする竹下、松本両氏と、宮尾、西川両司会

乾杯・歓談

愛知支部代表の竹下裕隆、近畿ブロック代表の松本秀範両氏の音頭で乾杯が行われると、合唱団が「乾杯の歌」を歌う中、祝宴が始まった。



をしているのだねと話された」事を紹介し、まさに「同窓会こそは心の日向ぼつこであり、心の支えである」と語られた。「縁あつて茗溪会の理事として3人の理事長の下で関わってきたが、その過程で多くの知己を得ることができた。同窓会は心の軸であり故郷であると思う。同窓生とは心のマントを脱いで心を開いて話せるものである。今筑波大学は未来に向けた改革で発展を遂げようとしている。そのためにも、大学と茗溪会が車の両輪となっていくこと祈念している。150年を迎えた茗溪会が、次の50年に向けて新理事長のもと活躍することをお祈りしている」と結んだ。



↑ 歓談する市橋功氏（S32教大健）と福岡一雄理事（S32教大法政）。二人は五十嵐耕一氏（S32教大法政）とともに、当日参加者の最年長であった。

→ F席（山形、福島、山梨、長野、新潟、富山、静岡、愛知）の参加者の方々



会場は、2階「茗溪の間」と1階レストランを開放し、祝宴は和やかな空気に包まれて進んだ。同窓の仲間がいくつもの固まりになって、楽しそうに語らっている姿が散見され、各所で「元気で明るい」茗溪会の雰囲気を感じ取れた。

宣揚歌、閉会の辞

時間は瞬く間に過ぎた。恒例では、宣揚歌「桐の葉」の斉唱となり、「大きな輪になって、肩を組み、歌い上げる」はずであるが、感染予防のため、神奈川県茗溪会の大石進事務局長の音頭で、「コール・パウロウニア」の方々に歌ってもらい、会員は心の中で唱和することとした。



学生服姿の大石氏の音頭による『宣揚歌』斉唱に思わず立ち上がって拍手する参会者達の姿が多く見受けられた。

川田孝一実行委員長から、「ここまで様々なことを考え、力の限り準備してきた。今日は参加して良かったと言ってもらえるよう準備をしてきた。本日は本当にありがとうございました」と、閉会の辞が述べられた。



閉会の時間になって、参加者は去りたい雰囲気であったが、それぞれの思いを胸に会場から去っていく姿が見えた。

江田理事長のご退任と卒寿を祝う会



寿をお迎えになられたのは江田先生お一人です。二年來の感染禍のために、お祝いできずにいましたので、この祝賀の場をお借りして、卒寿のお祝いを申し上げたく存じます。

長い間、茗溪会に意を尽くして頂き誠にありがとうございました。ご退任されても、なお一層のご指導ご鞭撻をよろしく願います。

江田理事長は茗溪会12代目の理事長だが、法人改革後の一般社団法人としては、初代理事長である。江田理事長と茗溪会の関りは因縁浅からぬものがある。

江田理事長は昭和6年生まれである。この年は、日本と茗溪会にとって、決して忘れることのできない年となった。

『茗溪会七十年史』p15は以下のように慨嘆に驚嘆を織り交ぜて記している。

「昭和6年から昭和27年の今日までの20年間は、わが国歴史あつて以来の大変動期で、中国の昔であつたら〈天柱折れ、地維くなく〉と形容したかも知れないほどの大破壊が、わが民族の上に降りかかつて来たのである。その中であつて、わが茗溪会はよくもその使命を見失わず、命脈をつないで来たものである。」

昭和6年は、師範学校開校60年を迎える。茗溪会は、「校運を祝福し、爽籟進展を祈る」祝賀資金の募集のために盛夏を奔走し、委員を出して学校側の諸計画を協賛した。記念式は10月30日の創立記念日を卜して盛大に行われた。その年、茗溪会員は、盛夏の奔走に

加えて、難事と慶事を迎えた。難事は「母校廃止反対運動」、慶事とは茗溪会館の起工式であつた。他方、日本は満州事変、翌年の五・一五事件を経て「大破壊」へと突き進んでいく。

昭和25年、江田理事長は府立四条畷高校を卒業し、東京教育大学体育学部に入學する。前年、10年にわたつて燦り続けた「二つの校名問題」が漸く収束した。

卒業後、高校教諭や大学講師等を経て、昭和41年、母校の教職に就いている。

この年は、筑波移転をめぐる学内混乱が深刻化し、母校は紛争「最重症校」といわれ自減寸前にまで追い込まれていく。



阿江副理事長から記念品を受け取る江田理事長。阿江副理事長は、昭和44年、5学部中ただ一つ入試のあった体育学部を受験した。

昭和43年暮、文部省との入試問題協議は、体育学部を除く4学部（文・理・教・農）の入試を中止とした。体育学部入試の実施の任に当つた江田理事長は当時の緊迫した様子を「学部教授会は不慮の事態にも対応できる万全の特別警備態勢を組んで対応した」と述べていた。

江田理事長が教授に就任したのはそ

の10年後の昭和52年である。その年の冬に「保谷グラウンド惜別宴」が催され、ラグビー部同窓が集結した。江田理事長は大学卒業後、城北学園に約7年在職、ラグビー部を指導し、昭和32年の国体では、全国優勝に導いていた。昭和53年、江田理事長は学生担当教官室長となるが、この年、三つの式が挙行された、教育大は、2学部（教育・農学）最後の卒業式と閉学式、筑波大では、第一期生の卒業式が挙行された。

翌54年、江田理事長は（財）筑波学都資金財団の評議員となる。

これが茗溪会との関わりの最初で、以来、40数年に及ぶが、鹿屋体育大学教授、そして学長を勤められた平成7年から6年間は茗溪会から離れていた。



理事会の進行をする矢野事務局長と江田理事長。昭和53年、矢野は東京教育大学最後の農学研究科修了生となった。

問合せがよくある。江田理事長の「理事の当初就任期間が平成13年から」となっている件である。鹿屋時代が茗溪会理事の就任期間に空白をもたらし

ている。退任間近の頃、矢野事務局長は理事長室に掲げる写真の撮影を申し出たが、「改めて撮る必要はない。流用でよい」ということで、数枚の候補を挙げた。鹿屋体育大学長時代の写真を選んだ。茗溪会に関われなかった空白を埋める。いかにも、江田理事長らしい選択である。

筑波大学は今

駐日米国特命全権大使一行が 永田学長を訪問

4月21日、Rahn Israel Emanuel 駐日米国特命全権大使一行が本学に訪し、永田恭介学長、ベントン・キャロライン 副学長(国際担当)、金保安則 副学長(産学連携担当)、大根田修 大学執行役員(国際室長)を訪問されました。

今回の訪問では、永田学長及びベントン副学長から本学の概要を紹介したのち、櫻井鉄也教授(システム情報系)、鈴木健嗣教授(システム情報系)、近藤剛弘准教授(数理物質系)から研究の紹介があり、大使とも活発な質疑応答や意見交換が行われました。米国出身の留学生も同席し大使一行と懇談しました。

今後米国との交流促進が期待されます。

駐日チュニジア共和国特命全権 大使一行が永田学長を訪問

4月25日、Mohamed ELLOUMI 駐日チュニジア共和国特命全権大使一行が本学に訪し、永田恭介学長、ベントン・キャロライン 副学長(国際担当)、大根田修 大学執行役員(国際室長)、木越英夫教授(地中海・北アフリカ研究センター長/数理物質系)、磯田博子教授(生命環境系)、森尾

貴広教授(国際室)を訪問されました。今回の訪問では、永田学長の国大協会長就任について改めてお祝いのお言葉をいただきました。大使は筑波大学がチュニジアにとって重要な戦略的パートナーであることを強調され、今夏開催予定の第8回アフリカ開発会議(TICAD8)に向けて本学とチュニジアとの連携のさらなる強化への期待を表されました。

大使一行は、学長への訪問の後、木越教授、磯田教授、柏木健一教授(人文社会系)、中嶋光敏特命教授と地中海・北アフリカ研究センターの施設見学を行い、留学生との懇談を行いました。今後もチュニジアとの交流と連携の促進が期待されます。

「学長と全代会構成員との懇談会」を開催

6月9日、「学長と全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議(全代会)構成員との懇談会」を開催しました。本懇談会は、毎年5月に全代会構成員が新メン

バーになることから、新議長団を中心に策定した活動方針を学長・副学長等へ説明し、懇談を行うことを目的として例年実



施しているものです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度及び一昨年度は、これまで実施してきた茶話会を中止し懇談のみとし、出席者を例年の3分の1程度に限定するなど、規模を縮小して実施していましたが、今年度は感染防止対策を十分に講じ、茶話会の実施は叶わなかったものの、ほぼコロナ禍以前と同規模の参加者が集い懇談することができました。

懇談会では、加賀信広学生生活支援室長の司会のもと、永田恭介学長の挨拶で始まり、続いて河野美羽全代会議長(人文・文化学群人文学類2年次)及び各委員会委員長から今年度の活動方針等について説明がありました。

また、今年度は、全代会や学長・副学長等から、留学生のチューター制度や教室申請等のオンライン化、創基50周年開学50周年に向けての企画などの話題提供があり、活発に意見交換が行われ、有意義な会となりました。

3年ぶりに春季スポーツ・デーを開催

5月14日、15日、第46回春季スポーツ・デーを開催しました。

1日目はあいにくの雨模様となったため、中央体育館バスケットボール場において開会式を行い、太田学生担当副学長の開会宣言でスポーツ・デーの幕が開きました。

小雨の中、屋外ではオリエンタリングとフットサル、屋内では、バスケットボール、ドッジボール、e-sports

を実施し、武道館では、キックターゲットやバブルサッカーなどの学生委員会企画8競技も行われました。



2日目は朝から晴天となり、前日にグラウンドコンディション不良のため延期となったテニスやキックベースも行われました。

8つの正式種目には約1,000人、学生委員会企画およびサークル企画には約200人の学生と教職員が参加し、3年ぶりの春季スポーツ・デーは大いに盛り上がりしました。

令和4年度 科学技術分野の文部 科学大臣表彰 科学技術賞・若手 科学者賞

令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」及び「若手科学者賞」を、本学所属の研究者11名が受賞しました。科学技術分野の文部科学大臣表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者についてその功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的として行われているものです。



幡ヶ谷寮で使用されていた茶碗
(写真提供、村島恒徳氏、現物の所持は加藤治氏)

Peer Garden

茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？

4月25日、レターパックが届いた。古びた帳簿類の間に手紙が同封されていた。

「昭和52年3月、東京教育大学体育学部最後の学年卒業の村島恒徳と申します。茗溪創基150年記念事業『思い出の品々の寄贈』のお知らせを読みました。送らせていただきます」

村島氏は「幡ヶ谷寮の最後の寮長」であった。

筑波大学に学生宿舎があるように、東京教育大学にも寄宿舍があった。代表的な寄宿舍として桐花寮があった。

寄宿舍 桐花寮

茗溪人が高唱する寮歌に『七寮節』がある。思い思いの振りを入れて歌う。「私しや好きだよ七寮の書生さん」の歌い出しだが、「七寮」とは7棟の寮からなる桐花寮を指す。

高橋邦輔氏（S23文四）が桐花寮に至る道筋を寄稿していた。

「附属小の下の道を進むと、氷川下から上ってくる坂道とぶつかる。そこに『桐花寮』と書かれた素朴な木標の下った寮門があった。それを入ると左側に掲示板が並び、寮に至る（『茗溪』884号p15）」

桐花寮は大塚校舎敷地内最北端の付属小学校裏にあり、各棟木造2階建てで上下6室あった。各棟は屋根付きコンクリートの廊下で結ばれ、端にトイレ、洗面所は廊下窓際にあり、食堂、炊事場、浴場は別棟であった。

桐花寮は高師以来の伝統的な寮であったが、昭和20年5月25日の東京大空襲で焼失した。戦後、板橋区常盤台に移転して再建された。昭和26年に着工し昭和33年に完成している。

襲で焼失した。戦後、板橋区常盤台に移転して再建された。昭和26年に着工し昭和33年に完成している。



戦時中の桐花寮『写真集東京教育大学百年』(昭和55年10月10日発行p135) 所収

戦後に建てられた寮は、ほかに昭和30年に建てられた女子寮の茗花寮と昭和37年に完成した駒場寮がある。

戦前に建てられ戦火を逃れた寮として保谷寮がある。主として体育学部の学生が入寮していた。

体育学部の学生が入寮していた寮はもう一つある。渋谷区本町に建てられた幡ヶ谷寮である。昭和24年竣工の木造二階建て4棟からなる寮で、3人部屋22室、二人部屋2室からなる70名収容の寮であった。

東京教育大学の学生寮は、桐花寮、茗花寮、駒場寮、保谷寮、そして幡ヶ谷寮の5寮があったのだが、その外観はもとより内部あるいは学生達の暮らしぶりを記録した写真は意外と少ない。茗溪会手持りの写真もきわめて少ない。右の写真は『写真集東京教育大学百年』に掲載されているものである。さて、幡ヶ谷寮最後の寮長であった

村島氏の回想を紹介しようと思う。回想は、新入生として入寮した頃から幡ヶ谷寮の取り壊しの顛末までを記している。

東京教育大学幡ヶ谷寮 最後の寮長村島恒徳の回想

昭和48年、幡ヶ谷寮の入寮試験は体育学部の会議室（ミーティング室）で行われた。中に入ると、24人の4年生が椅子に座っていた。剣道・柔道・バスケット・サッカー・体操・野球の24人であった。

「覚悟はできているか」と聞かれる。「はい」と答えると、「よし合格」という試験であった。インターハイでベスト4以上、先輩が活躍しており推薦があるものが基準だそうである。もう合格者は決まっていたのかもしれない。

次の年から後輩（筑波大生）は、大半が代々木のスポーツセンター（一部は5月まで寮で過ごす）から筑波へ戻るということで、私たちは万年下級生である。4年間便所掃除したことは、今となつては自慢できることである。

こうして4年が過ぎ、幡ヶ谷寮最後の日となった。卒業してしばらくしてからのものである。

副寮長の吉田浩（盛岡一高出身体操部）と二人で看取りに出かけた。吉田は水泳の単位をとるため筑波大学に通い、私は、大学院再受験のため、体育学部校舎の守衛をさせて頂いているとさと記憶する。

小雨が壊された板や材木の上にぽつぽつと音を立てていた。

4号室の押し入れのベニア壁が崩れてきた。その部屋の4年生の名前が筆で書かれていた。そのことは、入寮時から知っていた。終戦直後から書かれたものであった。すぐく重みのある感じを抱いていた。何人もの先輩達がこの部屋で生活されていたのだと、誇りを感じさせる筆書きの記名であった。

ふと気づくと、その剥がれかけたベニア板から、もう一枚のベニア板が現れた。不思議に思い剥がしてみた。なんとその下にもう一枚、同じく住人帳なる記名があったのである。そこには国文〇〇、物理〇〇、と記してあった。それがずらりと並んでいた。「えー体育以外の方も入寮していたのか」とびっくりしたことを記憶している。

床下に「ひかり」という煙草の空箱が二箱あった。私達の時代にはない珍しいものであった。なんとも重い歴史のかげらを顧みて、涙した。

少し斜めになった入口のコンクリートの瓦礫をかき分けながら、午前一時によくストームがあつて正座させられた場所を探った。いつも遅かったからこの辺かなと靴で撫でてやった。

2階建て21部屋に、離れの部屋が3部屋だ。1号室に「集合」の合図があれば、午前何時であろうと5分経たずに整列させられた。

4年生の時、夜更けに近所で傷害事件が起きたらしく、「殴っているの、手に傷があるはずだ。見せてくれ。」と、隣の代々木警察署の刑事がやってきた。すぐに集合をかけた。「事件があつたらしい。犯人を捜している。拳を見

せてくれ。」とだけ言う全員両拳を差し出した。この正義感、連帯感、潔さに感動した様子で、「失礼した。素晴らしい。」と言って刑事は戻って行った。自治寮としてきちんとしていた。寮費が払い戻された記憶がある。

一年次の寮費は二百円だった。次の年七百円、千二百円、最後の年は二千四百円にまで値上がりした。新入寮者がいないからだ。料金システムは食堂委員が朝のおかずをノートに記録して月単位で払ってもらうのである。

夕食時も同様であるが、時々、先輩に連れられて飲みに行った者の夕食が残されている。10時に後片づけのため断りなく誰が食べてもよいことになっていた。そんな時は三人程が群がる食生活だった。

その寮費が卒業時に清算された。先輩からの蓄積分も含めて二万円程を払い戻した記憶がある。きちんと寮生活が維持されていた証拠だと思う。

保谷寮の事情を聞いた。米屋の借金があり、先輩達にカンパを依頼したが、切手代が借金になったと笑っていた。

幡ヶ谷寮では寮祭や卒業追い出しパーティーも寮内で行う。お酒と料理は普段お世話になっている近隣のお店の現物支給や寸志で切り盛りする。(註)町中から支援された寮で、伝統を感じ

る。喧嘩もよくしたが、翌日はケロッとしている。家族のようであった。

今でも兄貴とよぶ先輩がいることは、幸せなことである。

私は、卒業して一年間、教育大体育

学部入り口横の守衛所にいた。剣道部だったので、道場に行き、不用の袴や剣道着などを整理することもあった。名前を切り取って継ぎ合わせ、竹刀袋を作った。こうして残った物は捨てた。

その頃のことである。

道場の床板が屋根のようにA型に反り上がり波うつっていた。踏みつけるくらいではびくともしない。総勢七十人で毎日踏み込んでいたから、ビーンと板が張り黒光りしていたのだ。そう思うと呆然とした。道場の床に何粒の涙と血を流したことや、腰を何度も叩きつけられたことも、記憶から吹き飛んでしまった。

時々、夜の守衛所に来客がある。

ある時、静岡から、サッカーと野球の先輩がお見えになった。「電気はありますか」と言うと、「グラウンドを歩くだけだから」と、暗闇へと消えた。しばらくして、「グラウンドがフカフカして泣いとる」と涙をこらえて言い残し、帰って行かれた。

寮の最後に涙し、道場の最後に涙し、暗闇のグラウンドに泣いた人達がいたことを、筑波の皆様に贈ります。

今となつては見えない先輩たちが、応援していることを忘れないでください。

東京教育大最後の卒業生

幡ヶ谷寮寮長より

(註)この事情については、次号(季刊誌『茗溪』秋号)で資料とともに紹介する。

昭和50年に行われた体育会OB会(中央は寮母の金崎キヨさん)の写真である。

幡ヶ谷寮解体工事の2年ほど前だが、この写真撮影に至るまでの苦労が記されていた。

「みんな、壁やガラスの落書き、倉庫の木札、部活の先生などから聞き取りをして、名簿作りから始まった」ということである。こうして、一年がかりで、第一回のOB会が開催された。第二回は学食で盛大に行われたが、それが最後となった。」



写真の中に、学生服姿の先輩たちが多く見られる。そして、寮母さんの横に学生帽を被った先輩がいる。学生帽について村島さんは「昭和49年の剣道部新人戦の時に着用したのが最後と記

憶しています」と、回答が返ってきた。そして、学生帽が送られてきた。



東京教育大学学生帽（村島恒徳氏寄贈）
学生帽の裏はボロボロで型紙が布からはみ出していた。

季刊誌『茗溪』春号（1112号）で、小俣幸嗣氏（S51教修体）から寄贈された徽章を紹介した。その時に「学生が制服を日常的に着用していた時代はいつ頃までだろう」「昭和50年以降になると、徽章を付けた学生の姿は少なくなった」と記したが、確かに村島氏の回想と符合する。

小俣氏と村島氏は同じ体育学部であり、小俣氏の学部卒業と入れ替わるように、村島氏は入学している。ちょうど、時代の変わり目の中で、お二人は学生生活を過ごしたようである。左の写真は、7月9日に開催された



「茗溪創基150年記念式典」祝賀会で『宣揚歌（桐の葉）』が謳い上げられた場面である。

司会は参会者に以下のお願いをした。「新型コロナウイルス禍をいまだ用心しなければならぬ時節柄でございませ。恒例の【大きな輪になって・肩を組んで・謳い上げる】、この3点セットは自重せざるをえません。皆様に代わりまして謳い上げは筑波大学混声合唱団卒業生有志にお任せし、私共はそれに合わせて心の中でご唱和頂ければと存じます」

合唱団をリードするのは、神奈川茗溪会の大石進氏（S56筑体）である。着用する学生帽は、村島氏寄贈のものである。

思い出の品々の寄贈（お願い） 茗溪創基150年記念事業

この度、会員の皆様の「茗溪創基150年記念事業」への参加の一つのあり方として、皆様から茗溪の流れに係る「思い出の品々」を寄贈していただく企画を実施しています。

1. ご寄贈いただく「思い出の品々」について

- ・「思い出の品々」につきましては、その内容の指定や限定はございません。
- ・ご提供頂く場合、品々に「簡単な説明」等を添えていただければ幸いです。

2. 募集期間

- ・茗溪創基150年の年度（2022年度）の終わりまでとさせていただきます。

3. 送り先

- ・画像ファイルの場合は、メールにて（peer@meikei.or.jp）までお送りください。
- ・アルバムなど思い出の品々につきましては、大塚事務所までご送付ください。

4. ご寄贈いただいた「思い出の品々」の活用

- ・ご提供いただいたご寄贈の品々につきましては、『茗溪』Peer Gardenの中で、紹介させていただきます。また、その一部は、『茗溪創基150年記念誌』（仮称）の資料として活用させていただきます場合もございます。
- ・その他の寄贈につきましては、茗溪会活動の中で広く活用させていただきます。

医薬品・関連業界の交流会スタート

6月に第1回開催。今秋も予定

毎日新聞 記者 荒木涼子（09年自然科学類卒）



◇梅雨明けのどあい

茗溪会事務局のある大塚事務所（東京都文京区）にて6月26日、同窓会有志による交流会が開催されました。まだ会の正式名は決まっておられません。

ですが、医薬品やその関連業界に関係する80年代卒から00年代卒まで8人、さらには事務局の先輩方も含めると、なんと前身となる東京教育大の大先輩も含め総勢14人で活発な意見交換、情報交換がなされました。

この日の翌日、6月27日は、関東甲信と九州南部、東海地方で例年にない早さの梅雨明け。もちろん26日も猛暑で、誰もがハンカチを片手に茗荷谷駅から歩いて来ましたが、交流会はそれに負けないほどの盛り上がりでした。

交流会のきっかけは、今年4月に発行された『茗溪』春号（1112号）15頁左下に掲載された小さな募集記事「交流の輪を広げませんか？」です。83年農林学類卒の藤江昭彦さん（現国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）、96年工学類卒の塚本格（現武田薬品工業）が呼びかけ人となり、この記事が幸運にも（？）、偶然にも（？）見つけた人が集まり、実現しました。

午後イチの時間で始まった交流会では、大学時代から卒業後の仕事など、自己紹介からスタート。その後は、前出の『茗溪』春号（14～15頁）に藤江さんが執筆された「抗菌薬が効かない―薬剤耐性（AMR）が拡大―」の記事をもとに、抗菌薬の問題を掘り下げての情報交換となりました。

した。

藤江さんの記事によると、薬剤耐性菌の問題は、新型コロナウイルス感染症のように急速に患者数が増加する「見えやすい」ものではなく、じわりじわりと増え、「サイレントパンデミック」と呼ばれているとのこと。2013年の薬剤耐性菌による世界の死者数は約70万人だったのが2019年には約127万人。そして英国の調査によると、今後も薬剤耐性菌は増え続け、このまま新しい抗菌薬が開発されなければ、2050年には死者数が年間1,000万人となるといわれているそうです。

この数字を見るだけでも危機感を覚える方は多いのではないのでしょうか。



私は大学院修了後に毎日新聞の記者となり、静岡支局での5年間を経て、2017年からは主に医学・医療周辺を専門に取材を進めてきました。ですが、恥ずかしながら、この薬剤耐性菌の問題に関しては、「聞いたことはあるけれど、それより目の前の事件や発生モノ（例えば新型コロナウイルス）で手一杯」と言い訳し、真剣に取り組んだことがありませんでした。

藤江さんの記事では、この問題に官民挙げて取り組む「AMED感染症創薬産学官連絡会」が2018年に発足したことなく、背景や課題も紹介されています。

26日の交流会では、この薬剤耐性の問題を受け、抗菌薬の生産・供給、さらに新抗菌薬開発における国内外の課題についても、83年生物学類卒の高橋義三郎さん（現Meiji Seikaファルマワクチン企画推進部／経営企画部）から紹介いただきました。

昨今のコロナ禍によるサプライチェーンの寸断によるマスクや消毒薬の不足、それ以前からのレアアース、レアメタルの偏在による輸入不安、そしてロシアによるウクライナ侵攻で加速したエネルギー価格の高騰などで、「経済安全保障」というワードを、多くの方が耳にされていると思います。同様に、医薬品も供給が停滞する事態となっていました。

例えば手術時に一般的に使われるセフアゾリンという抗菌薬が不足、代替薬も連鎖的に不足し、医療現場では大きな問



題となっていました。

そこで、抗菌薬の安定供給を確保すべく生産拠点の国内回帰が議論されているそうです。しかし、過去長期間にわたる価格競争などの結果、抗菌薬の原料となる物質は、世界の9割以上を中国が製造し、日本は中国からの輸入に頼る様になりました。すぐに国内で生産を再開できる状況はなく、国産化に向けて産業界を中心によりやく国内製造の再構築に着手した段階とのことでした。米国でも同様の状況がありますが、先駆けて今年2月、抗菌薬のサプライチェーンを強化すべく、大統領令で国防生産法や戦略的国家備蓄法が施行。安全保障として取り組んでいる

ることも紹介いただきました。

交流会参加者からは「日本の企業が再構築できるためにはどういう国の支援が必要なのか」「そもそも価格競争力で負けてしまった背景は何か」、「特許などで手伝えることないか」など、それぞれの立場の得意分野を生かした解決方法や課題の掘り下げなどの質問・意見が飛び交いました。

交流会には「薬」をキーワードに、医薬品やその周辺に携わる企業の研究員から、開発担当者、試験担当者、さらには弁護士事務所を開いている方まで、様々な立場の方にお集まりいただきました。また、出身学類、出身研究科も生物、農林、人間社会、社工、自然…と多岐にわたります。「薬学部がないからこそ、広く輪を広げられる可能性があるのではないか」と、感じた交流会となりました。

私見になりますが、日々、メディアで新しい情報を探す立場にいて、一番大切だと痛感しているのは、「人と人とのつながり、出会い」です。インターネット、とくにSNSの普及により、情報の洪水とも言われる昨今ですが、やはり「何が起きていて、何が課題になっていて、どうすればいいのか」は、一人一人の声を聞いていくことが、最善の近道であると思っています。これはどこの立場の方であれ同じなのではないでしょうか。

筑波大学で過ごせた期間は、かけがえない時間で、多くの友を得ることができました。私は2000年代を現「第1エリア」で過ごしていました。たまに取

材で大学に戻ると、松見池の像などに立ち寄りに行きたくなります。細かい時や場所は違っても、同じ世界を経験した人同士で、社会に出てからの共通項「医薬」をテーマに知り合えることに、わくわくしています。ぜひ、今後の交流会がより盛り上げられるよう、皆さまのご参加をお待ちしております。

交流の輪を広げませんか？

- 他大学では薬学部同窓会等で情報交換をしていると聞き及びます。筑波大学には薬学部はありませんが、医薬品及び関連業界関係の方々が多くいらっしゃるようです。母校に薬学部が無いということは逆に広く大きな輪になる可能性もあります。交流の輪を広げませんか？

交流の輪に加われる方、関心のある方は、下記連絡先にご一報下さい。

茗溪会事務局（大塚事務所）

☎ 03-3941-0136

E-mail : peer@meikei.or.jp

誌上講座「知の提供」

東京2020大会を

振り返って

筑波大学特命教授／名誉教授

真田 久（昭和54筑体卒・茗溪会理事）

東京2020大会は新型コロナウイルス感染症により1年延期、しかもほとんど無観客で開催されるという、近代オリンピック史上、初の経験となりました。この東京2020大会について、感染症とオリンピックという視点からその特徴を見つめたいと思います。オリンピックと感染症との関係は、実は古代にまで遡ることができ、また約100年前のアントワープ1920大会も、感染症の直後開催されるなど、両者には接点が少ないから存在するからです。

1. オリンピックと感染症

・古代オリンピック

古代オリンピックは、紀元前776年に始まり、紀元後393年まで1200年近く行われました。その起源について、2世紀にパウサニアスという地誌家は次のように記しています。

「当時のギリシャは内戦と疫病でひどく疲弊していたので、デルフォイの神に災いから逃れられる術を尋ねたところ、オリンピアでの競技祭を開催するように命じた。」

オリンピアの地はギリシャの最高神ゼウスの聖地でした。戦いを休止し、身体のパフォーマンスを見せることで神々を称える、これは人間の活力を奉納することでした。災難に見舞われた時、神の意向を探って難から逃れようとするのは人間の常で、日本の祭りにも同様の意味合いが含まれているものは多くあります。

・近代オリンピックと感染症ーアントワープ1920大会ー

近代になって、戦争と感染症からの復興という性格を持つオリンピックがアントワープ1920大会です。この大会は第一次世界大戦直後にスペインインフルエンザ禍で開催されました。大戦とともに、アメリカで発したインフルエンザが1918年から20年までの世界的に流行し、5,000万人もの死者が出ます。その時に開催されたのがアントワープ大会で、日本を含む29カ国が参加し、23競技が競われました。8月14日の開会式では、新たに次の儀礼が始められました。それは、オリンピックシンボル（五輪旗）の掲揚、選手宣誓そして放鳩でした。五輪旗はクーパー自身によるデザインで、五つの輪は五大陸を表し、世界が連帯し、団結することを意味しています。第一次世界大戦後、全ての人々が連帯することの重要性を認識する場となったのでした。

ベルギー選手の代表が、フェアプレイの精神で戦うことを宣誓し、さらに平和の象徴として鳩が空に放たれました。連帯、フェアプレイ、そして平和を象徴するこれらの儀礼は、それ以降

の開会式に受け継がれています。つまりオリンピック理念を開会式で視覚化し、それがレガシーとして受け継がれたのでした。

・「精力善用・自他共栄」の誕生

さて、アントワープ1920大会の日本選手団団長は嘉納治五郎です。大会後、彼は欧米を回り、政治家、教育研究者や行政官と面談し、大戦後の変化の様子を把握しました。横浜帰着は1921年2月11日なので、5ヶ月かけて世界を見聞したので、物価の高騰や物不足による生活苦に陥っている様子を出稼ぎ人に直接話しかけて確認したりしています。

オックスフォードの校長との対話では、学生は運動場で団体に奉仕する精神や、紳士のマナーを教えていること、また、男女を区別する理由はなく、女子でも学位が与えられ、どんな職業にもつけるようになったことを講道館の機関誌に書き留めています。さらに国際連盟を創設しなければ世界の平和の維持は不可能であるとの議論もなされました。

その一方、米国では、黒人と白人とは到底融和することが出来ないと考え、黒人が多く、黒人差別に対する問題の深さを認識しました。オリンピックで示された連帯は理想だが、現実社会では逆に、分断が進んでいる様子も認識したのでした。

嘉納は翌1922年1月1日に講道館文化会を設立し、4項目の宣言を発表しますが、次のように、人種的偏見の撤廃も求めています。

「世界に対しては、人種的偏見を去り、

文化の向上均霑に努め、人類の共栄を図ること」

米国で見た黒人差別をなくさない限り、人類共通の文化であるスポーツやオリンピックを発展させていくことはできない、という嘉納の決意を感じさせます。1948年の世界人権宣言より26年も前のことです。

嘉納は1915年に「柔道は心身の力を最も有効に使用する道である」という「精力最善活用」を唱えました。それによって自己を完成させ、それが他の完成を助け、自他が共栄すること、で人類の平和と幸福を求めたのでした。「精力善用・自他共栄」そして宣言は世界大戦とインフルエンザ禍を背景として完成されたといえるのです。

2. 東京2020大会の光と影

2021年7月23日に開幕した第32回オリンピック競技大会参加チームは、難民選手団含めて206で、選手数は11,420人でした。リオ2016大会の207には及びませんでした。コロナ禍にこれだけの数の選手団が集まったことは注目に値します。一方のパラリンピック競技大会には162カ国・地域で選手数は4,403人で、選手数は史上最多になりました。また女性選手の割合は、オリンピックで48%、パラリンピックでは42%で、こちらも史上最多となったのです。オリンピックの男女混合種目はリオの2倍に当たる18種目、LGBTQを公表したアスリートがオリンピックで180人を超すなど、パラリンピックとともに、多様性と調和を目指す大会のビジョンを具体化するもの

となりました。パラリンピックで行われたユニバーサルリレーは、男女2人ずつが、それぞれ異なる障害（視覚障害、義足、脳性まひ、車いす）のある4人でチームを編成して競います。ガイドランナーは健常者であることから、まさに多様性と調和を表すスポーツとして印象深いものとなりました。スポーツは、多様性を認め合うことを、目で見て伝えるメッセージ性を持っているといえます。今後もこのような理念の実現を社会が追求していくことは、東京2020大会のレガシーとして特に大切だと思います。

東京2020大会に附属学校含む筑波大学関係者はオリンピックに29人、パラリンピックに21人の選手が参加しました。オリンピックでは金1（柔道）、銀2（柔道、自転車）を獲得し、また7種目で入賞しました。パラリンピックでは、金1（競泳）、銀1（競泳）、銅4（マラソン、トライアスロン、ゴールボール、バドミントン）を獲得し、8種目で入賞を果たしました。オリンピックでは、タイとパキスタンの代表選手にも筑波大出身者がいましたし、カメルーン選手団の代表は、筑波大出身者でした。東京2020大会組織委員会にも10数名の筑波大学大学院スポーツ・オリリンピック学学位プログラム出身者が働いていましたが、その半数以上は留学生でした。いまや筑波大学出身者は世界のスポーツ界を支えているのです。

一方、東京2020大会の開催をめぐって、開催直前でも否定的な声が多くありました。2021年春の世論調査（共同通信社、朝日新聞社、読売新聞社、NHK）では、「開催すべき」が15〜40%、「再延期および開催中止」が60〜83%でした。これは、コロナ禍において開催することの意義と大会のビジョンを主催者側がうまく説明できなかったことを意味しています。開催すべきか否かという、コロナ禍において二者択一の発想に社会が陥っていたことも要因ではありますが、どのような価値が生み出せる大会にできるかという発想に持っていかれたことは、今大会の影の部分でした。オリンピックが終了した8月末以降の調査では、「開催してよかった」が56〜78%、「よくなかった」が21〜32%と逆転しましたが、これはアスリートたちの真摯に競技に向かう姿、称え合う姿に多くの人々が共感したからでしょう。

まとめ

東京2020大会は無観客ながら、感染を抑えて無事に終了しました。大会組織委員会、医療関係者、政府、そしてIOC、IPCやIFなど、日本と国際スポーツ界が連帯できたからです。バブル方式の実施とともに、選手や関係者のスクリーニング検査は一日平均14万人行い、陽性者数は全期間で299人（陽性率0.03%）、療養者数は25人で、入院対応になったのは5人のみでした。このような感染症対策は、その後の国際的なイベントに受け継がれています。さらに東京2020大会では、徹底的に省力化を果たしました。選手以外の関係者（IF、IOCなどのオリンピッククファミリーなど）の参加者数を大幅に減らしたのです。オリンピック

では当初14万人の参加予定者を3.3万人に、パラリンピックでは3.6万人を1万人に減じました。また頻繁に開催されるパティや競技場に設置されるゲスト対応のホスピタリティも大幅に削減されました。その結果、アスリートたちの熱戦に関係者が集中でき、アスリートは延期された苦しい1年を乗り越えて集ったので、お互いを称え合う場面が多く見られたのだと思います。

開会式では「より速く、より高く、より強く」というオリンピックモットーに、「TOGETHER共に」を加えることが公表されました。共生社会を目指すパラリンピックでは、「We the 15」が掲げられたことで、「共に」という意味が刻まれました。

「より速く、より高く、より強く」は個人の課題ですが、「共に」は自他共にいうことと理解でき、前者は精力善用、後者は自他共栄といえると思います。

人類は古代より、オリンピックを通して戦争や感染症に立ち向かってきました。古代では休戦を編み出し、近代においては、連帯の象徴としてオリンピック・シンボルを編み出しました。さらに嘉納治五郎は「精力善用・自他共栄」の考えと人種的偏見の撤廃を宣言しました。

東京2020大会では、省力化を図り、連帯と称え合う姿を通して、ムーブメントとして「多様性」と「共に」という大切なものを示したといえるでしょう。それは嘉納が示した考えと合致するものであり、レガシーとしても、また今後の大会やムーブメントのあり方を考える上で重要だと思います。

派遣講師の情報（追加）

2209 真田 久

- ・専門分野…オリリンピック学、スポーツ史、スポーツと文化
- ・担当学群・大学院…体育専門学群、国際スポーツ開発学専攻、スポーツ・オリリンピック学学位プログラム
- ・出身…東京都

・抱負…東京2020大会は新型コロナウイルスの影響で1年遅れて開催されました。その間に進んだ社会の分断のエネルギーに影響を受けつつも、世界から集ったアスリートたちのパフォーマンスは、連帯や多様性を認め合う大切さを示してくれました。その一方で、大会の規模や在り方など改革を進める必要性も提供しました。北京2022大会では、オリンピック休戦を破る事象が顕著に現れ、国際大会への参加禁止という制裁が課されました。戦争や疫病から逃れたいと始められたのが、古代オリンピックです。それから2800年が経ち、原点の問題が再び姿を表しました。どのように向き合えば良いのか、先哲や歴史に学びたいと思います。

講演テーマ…

- (1) オリリンピックの魅力と課題
オリリンピックの歴史―古代から現代まで―
- (2) 嘉納治五郎のスポーツ教育

茗溪学園だより

トレーニング・部室棟完成

昨年より建設中のトレーニング棟と部室棟が6月末に完成しました。

建物の概要は、木造2階建、床面積178坪（1階124坪、2階54坪）、部室を8室（各階4室）、1階のトレーニング室が84畳、フリースペースが110畳（柱のない空間）、中庭に面したピロティが74畳と、広々とした空間を作っています。2階グラウンド側には、ラグビー場が見渡せる45畳のフリースペース。トレーニング室は3室に分かれていて、エアコンも設置しました。

早速トレーニング機器を配置し、トレーニング棟の使い方について、生徒達に説明が行われ、利用開始されました。

この建物建設に当たっては、設計、構造設計、照明機器、内装、外構・植栽の設計・工事などで、9名の卒業生が関わりました。設計者からトレーニング棟新築の話聞いた卒業生やそ



中庭側からの外観：屋根は筑波山のイメージ



広い空間のフリースペース。右側がトレーニングルーム



竣工式にて：設計者から「卒業生がチームになって作りました」。フランスで活動する卒業生書家の作品が壁を飾る。

IBコースの学びを求める生徒の増加と共に、海外大学への進学者も増えていきます。海外大学の合格数は、2019年度32、2020年度33、2021年度が92となり、3年間合計は157です。スタンフォード大学、UCバークレー、イ



男女共にインターハイ出場。快挙を成し遂げたバドミントン部。



全国6位となった高校ラグビー部。菅平高原にて

の保護者から、新築記念として記念樹、木製ベンチ他のご寄付をいただきました。在校生保護者からも、木材のご寄付をいただき、フリースペースの内装や靴箱に利用させていただきました。木目の美しい杉材で、無垢材の重厚感が木の香りと共に際立っています。7月22日に、お礼の会として竣工式を開催し、ご援助いただいた皆様にご出席いただいて、感謝の気持ちを伝えようと共に、お披露目をさせていた

正規留学生20名入学

正規留学生とは、3年または2年間を本校で学び、本校の卒業資格を取得する留学生です。卒業後は主に日本国内の大学に進学を希望しています。2020年以降、海外からの入国が困難で、現高2・3年留学生は、自国においてオンライン授業となっていました。しかし今年度4月、やっと入国ができるようになり、中国、韓国、台湾、シンガポールから20名の留学生が入学しました。

夏休み以降も8名の正規留学生が入学してきま

すので、今年度は合計28名となります。本校は2025年度で高年生の5%（約40名）、2030年度に高年生の10%（約80名）を留学生として迎えることを目標として立てました。10%の正規留学生が在校生と共に学ぶことで、筑波大学と同じようなグローバルな環境を作ろうとしています。



無事入国し、入学式に参列できた留学生達。

IBコースと海外大学進学

IBコースが始まり6年が経過しました。開始から3期生までの入学数は10名台、4・5期は20名台でしたが、今年度6期生は一気に45名にまで増えました。

IBコースの学びを求める

生徒の増加と共に、

海外大学への進学者

も増えていきます。海

外大学の合格数は、

2019年度32、2

020年度33、20

21年度が92とな

り、3年間合計は157

です。スタンフォード

大学、UCバークレー、イ

高校バドミントン部インターハイ出場

ンペリアルカレッジロンドンの他、世界大学ランキング100位以内の大学に、この3年間で62の合格者が出ています。今後、益々海外大学への進学者は増えていくものと思われます。しっかりとした学びができるよう進めてまいります。

6月に行われた県大会で男女共に団体で優勝しました。また、個人戦では男女ダブルス、女子シングルスで優勝しました。7月末から開催されるインターハイ（徳島県）に出場します。県大会で男女団体優勝は初めての事です。

高校ラグビー部全国7人制大会

7月16～18日、長野県菅平高原で全国高校7人制大会が開催されました。予選リーグを難なく勝ち上がり、決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメント1回戦、神奈川の桐蔭学園に20対19と逆転勝ち、2回戦では東福岡高校に終了間際までのリードを守り切れず12対15と逆転され、準決勝進出を逃しました。全国の強豪校と渡り合った経験は、次の全国大会で活かされるものと思います。

追 悼 録（敬称略）

逝去会員氏名・卒年科・地域・
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

山川 武正	21大東史	群馬	R4. 4. 3	長男	山川 和正	中村 六郎	30教大地	東京	R3.12. 4	妻	中村 智子
秋沢 正	23体専	栃木	R3. 2.10	次女	秋沢 裕子	福原 建郎	30教大農	神奈川	R4. 2. 2	長男	福原 毅史
宮下 直	23農教	長野	R3.12.25	長女	田中 法子	高松 信英	32教大教	長野	R4. 2.28	妻	高松 和子
福田 啓子	23農教	神奈川	R4. 3.26	長男	福田 宗徳	紺野 雄三	32教大植	埼玉	R4. 5.19	子	紺野 敦
石川 源朗	23文二	山梨	R4. 3. 1	長男	石川 君男	倉田 澄子	32教大数	神奈川	R3. 4. 1	甥	橘川 敬介
山老 良一	23理一	東京	R4. 4.11	長男	山老 毅	松本 武司	32教大東史	奈良	R3.11.22	妻	松本 一子
田口 宣	24農教	静岡	R3. 7. 2	妻	田口いよ江	横内 岡	33教大健	長野	R3.10.28	長男	横内 博
山本 吉夫	25体	長野	R4. 3.26	長男	山本 真	笹島勇治郎	33院修教	北海道	R3.10.30	妻	笹島喜代子
栗山 克美	25大物	東京	R4. 5.18	妻	栗山 武子	海野 正起	34教大健	和歌山	R4. 1.11	妻	海野 佳子
近藤 昭三	25農教化	静岡	R4. 2. 9	妻	近藤 信子	永井 吉人	34教大総農	茨城	R4. 5.15	長男	永井 誠一
吉澤 信夫	26理一	栃木	R3.11.21	子	吉澤 豊	濱口 福壽	34院修東史	新潟	R4. 6. 7	長男	濱口 哲史
花吉 洋一	26理二	熊本	R3. 7.17	妻	花吉百合子	森野 宗明	34院博日文	筑波大	R4. 4.21	長男	森野 崇
上田 邦男	26農教	茨城	R3. 9.10	長女	上田まゆみ	柏木 丈一	35教大数	神奈川	R4. 5.16	妻	柏木 敏子
太田 啓正 (小栗)	26大化	千葉	R4. 7. 2	長女	田中素乃子	大友 鎌一	38教大地鉦	福島	R4. 2.19	妻	大友美紗子
武井 詢	28教大教	東京	R4. 2.28	長男	武井 晶	仲谷 紀男	39教大農化	東京	R3. 8.13	長男	仲谷 渉
加藤 喜高	28教大植	東京	R4. 3.11	長男	加藤 高洋	藤井 辰男	40教大農化	東京	R4. 6.21	長女	原田 美紀
葛西菊太郎	28大教	東京	R4. 3. 6	長男	葛西 泰洋	丸山 雄三	40教大仏	東京	R4. 7. 3	妻	丸山 礼子
八木澤 昭	29教大植	東京	R3. 7.19	長男	八木澤一郎	阿部 生雄	47院修教	筑波大	R3.12.18	妻	阿部いと子
岩崎 照	29教大体	千葉	R3. 3.19	長女	岩崎里恵子	植草 完	52教大体	千葉	R4. 3.25	妻	植草 史江
林 博是	30教大健	東京	R4. 3.17	妻	林 昌子	板橋 宏	63筑一自	茨城	R4. 6. 2	妻	板橋 純子
深澤 孟雄	30教大体	山梨	R4. 5. 8	次男	深澤 准						

茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会の
延期について

10月2日(日)に、茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、延期と致します。今後の予定は以下の通りです。

- ・8月下旬 執行部会議等で、開催日時内容の検討
- ・9月上旬 理事会にて、右記案件を協議
- ・9月以降 各地域組織に改めて開催日時等を案内

追悼のついでについて

9月10日(土)に予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、11月5日(土)に延期いたします。

第10回東京茗溪会総会・話題提供・懇親会の
ご案内とZoomハイブリッドで開催

7月に行われた茗溪創基150周年記念式典を受けて、東京茗溪会では『人を育てる伝統』、茗溪人のアイデンティティを語る」をテーマに、話題提供と意見交換を行います。

全国どこからでもご参加いただけます。どうぞふるってご参加くださいませ。詳細は後日、季刊誌「茗溪」秋号および茗溪会ホームページでお知らせいたします。

記

11月27日(日) 14時～
話題提供者(予定)

真田 久 様 (筑波大学体育系教授・茗溪会理事
元オリンピック／パラリンピック)

宮本久也 様 (東京都立八王子東高等学校 統括校長
競技大会組織委員会参与)

平塚知真子様 (イーデール株式会社 代表取締役
全国高等学校校長協会顧問)

グーグル認定トレーナー)

令和4年春の叙勲

おめでとうございます(敬称略)

瑞宝中綬章

松永 淳一 39教大体
宮田 和信 42教大体 45院修体

(長崎
鹿児島)

瑞宝小綬章

高橋 光彦 50教大健
新田 銀一 50教大数
市村 博 50教大数
河内 一男 49教大地鉦

(岩手
福島
茨城
新潟)

瑞宝双光章

樋口 眞孝 48教大東史
小島 修 49教大体

(千葉
佐賀)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

広 報

訂 正

前号(令和4年春号)で誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

P 24 「追悼録」右列最上段

(正) 櫻井 啓造
(誤) 櫻井 敬造

P 25 「▽茗溪会事務局」4列目

(正) 埜渡真樹子
(誤) 埜渡真紀子

◇地域組織のR4年度総会(実施・予定)

(R4年7月15日現在)

月 日	地域名	月 日	地域名	月 日	地域名
7月13日	筑波大学	6月19日	長野	9月中旬	島根
10月中旬	名義教授の会	6月26日	新潟	未 定	岡山
5月7日	北海道	未 定	富山	未 定	広島
未 定	青森	未 定	石川	10月15日	山口
1月7日	岩手	2月4日	福井	7月中旬	徳島
11月26日	宮城	6月25日	静岡	11月下旬	香川
未 定	秋田	7月10日	愛知	8月7日	愛媛
11月下旬	山形	2月初旬	岐阜	未 定	高知
7月2日	福島	未 定	滋賀	7月上旬	福岡
8月11日	茨城	中 止	関西フロン	6月4日	佐賀
未 定	栃木	中 止	三重	6月25日	長崎
6月18日	群馬	11/19 or 11/12	京都	6月11日	熊本
未 定	埼玉	11月5日	大阪	未 定	大分
7月3日	千葉	6月18日	兵庫	未 定	宮崎
11月27日	東京	未 定	奈良	未 定	鹿児島
7月23日	神奈川	7月中旬	和歌山	未 定	沖縄
8月12月	山梨	11月下旬	鳥取		

表紙写真について

本号の表紙写真は、7月9日の茗溪創基150年記念式典および定時総会の写真撮影を受け持ってください。広報委員の鈴木一弘氏が撮影されたものの一枚です。
いつも良い写真を撮って下さり有り難うございます。

編集後記

本号は、7月9日の「茗溪創基150年記念式典」および同時開催の「第11回定時総会」のために、例年より一ヶ月遅らせて発行いたしました。
記念式典等の様子が少しでも会員皆様にお伝えできればと思います。
本定時総会をもって、理事長を10年間務められた江田昌佑氏が退任され、新たに井口武雄氏が新理事長に就任されました。
次号、1114・秋号は例年通り10月15日に発行予定です。
(事務局)

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めをお願いいたします。

令和4年8月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL <http://www.meikei.or.jp>

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-8771 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

近日刊行

IBDフォローのための
First Aidマニュアル

秋山 慎太郎
松岡 克善 監修
(9月28日刊行予定)

販売・丸善出版



もっと知りたい！
「科学の芽」の世界
PART 8

「科学の芽」賞実行委員会 編
定価 2,420 円 B5 判並製 202 頁
カラー／紙版・電子版 C0040
ISBN 978-4-904074-69-5 (紙版)



距離分布からみる
空間

腰塚 武志 著
定価 4,730 円 A5 判並製 242 頁
紙版・電子版 C3052
ISBN 978-4-904074-67-1 (紙版)



北米先住民族の
宗教と神話の世界
—歴史と文化交渉の観点から—

木村 武史 著
定価 6,050 円 A5 判並製 406 頁
紙版・電子版 C1014
ISBN 978-4-904074-65-7 (紙版)



株式会社 阿部兄弟建築事務所
平成26年度東京ワークライフバランス認定企業

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル

代表取締役 荒井 豊人(昭和57筑基工)

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

経営・労務・年金etc. コンサルタント
福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3

TEL 03(3607)0551 FAX 03(5876)4338

所 長 福岡 一雄 (32教大法政)
社会保険労務士



株式会社 十和観光

代表取締役 井坂 信洋

URL <http://www.juwa.com> E-mail: travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220



株式会社 岩手チキン工房

—みんなに笑顔をお届けします。—

代表取締役 田中 修(昭54筑農林)
社長

〒028-3309 岩手県紫波郡紫波町北日詰字城内85-1
TEL: 019(676)4121 FAX: 019(676)4464
<http://www.i-c-koubou.co.jp>

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」
TSUKUBA WAY プロジェクト
～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ

代表取締役 藤田 文武(体育専門学郡
2004年卒)



Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>

当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。

創業者：代表取締役社長執行役員 谷輪 重之(93筑修経営)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 ケイエスアイ

本社 〒557-0063
大阪市西成区南津守7-15-16

TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号

電話 03(3456)4501

取締役専務執行役員 植岡 祥之(昭57筑社工)

筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション！

新・教職課程演習

全 22 巻

筑波大学人間系教授 清水美恵 監修
広島大学大学院教授 小山正孝

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位(大学院)プログラムと、
広島大学大学院人間社会科学研究所(旧大学院教育学研究科)の専任教員が編者として
初めて協力する画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5 判・並製
定価：1,650 円～2,640 円(税込)



協同出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5
TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp>

「新・教職課程演習」全 22 巻

日本一の業務用酒販会社で一緒に楽しく働きませんか？

※業務用…居酒屋、BAR、レストランなど料飲店のお客様

カクヤスは、酒類・食品等の料飲店及び一般家庭向け販売、「なんでも酒やカクヤス」を主力とする店舗運営を行っております。全国各地から多数入社しており、若手からベテランまで活気のある会社です！



圧倒的な
配達拠点数



年中無休
365日配達



365日24時間
受注体制



急なご注文も
即日配達



社員の家族も招待して乾杯する【全社懇親会】や割安で商品を購入できる【社内販売割引制度】、年齢や部署を超えて交流できる【部活動・サークル活動】など、魅力的な制度をたくさんご用意しております。

国内業務用酒販 売上NO.1！

(2016年調査会社調べ)

顧客満足度NO.1！

(首都圏飲食店2017年5月調査会社調べ)



株式会社カクヤス

＜会社概要＞

本社：東京都北区豊島2-3-1
代表取締役：佐藤 順一
創業：1921年11月1日
資本金：355百万円

＜仕事内容＞

・料飲店などの業務店のルート配達
・一般のご家庭への配達

HPにも遊びに
来てくださいね！



<https://www.kakuyasu-group.co.jp/>

連絡先：03-5902-3617
(人材開発部 採用担当)



なんでも酒や **カクヤス**

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗 溪 会

〒112-0012

東京都文京区大塚1丁目5番23号

電 話 03(3941)0136

F A X 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp



安全に、快適に、正確に
大曽根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 育子

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

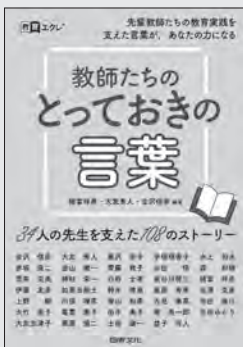
TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス http://www.taxi.e-tsukuba.jp

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます



教師たちの とっておきの言葉

34人の先生を支えた108のストーリー

諸富祥彦・大友秀人・会沢信彦 編著

A5判 128頁 定価1,980円

日本全国で活躍する先生たちに聞きました!

「あなたの教育実践を支えた言葉」は何ですか?

この言葉が子どもの心に響いた! この言葉で子どもが変わり始めた!
悩んでいるとき、先輩のあの一言で力が湧いた! 道標になった! etc.

明日の教育実践への力になる「言葉とエピソード」が満載です。

本書の
構成

1章 子どもとの間で活きた言葉

2章 保護者との間で活きた言葉

3章 同僚・管理職との間で活きた言葉

4章 自分の人生を支えている言葉

1つの言葉を
1ページで展開

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
http://www.toshobunka.co.jp/

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

Meikei—
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆国際バカロレア IBDP 課程認定校です
- ◆「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です

2023年度入試に関連する学園
説明会や学校見学などにつつまし
ては、ホームページでご確認くだ
さい。下記のe-mailでも問い合
わせができます。

ご活用ください。



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)